

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	理工学館B棟	階数	地上5F
建設地	神奈川県横須賀市走水1-1944-1他	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	1,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	6,000 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年6月 予定	評価の実施日	2018年5月18日
敷地面積	10,041 m ²	作成者	一級建築士事務所 株式会社 山下設計
建築面積	3,559 m ²	確認日	2018年5月22日
延床面積	17,396 m ²	確認者	一級建築士事務所 株式会社 山下設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.4 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項

総合	その他
<ul style="list-style-type: none"> 中庭を口の字型に囲んだ平面計画とする。 中廊下形式とするが、各居室は基本的に外気に面した窓を持つ。 屋上に太陽光発電設備を備える。 	
<h4>Q1 室内環境</h4> <ul style="list-style-type: none"> 基本的に空用途(教室、研究室、実験室等)を問わず、有窓居室とし、自然採光、自然換気しやすい計画とする。 空用途上、やむを得ない場合は無窓居室とする場合もある。 居室に対し30m³/人の換気風量を確保する。 	<h4>Q2 サービス性能</h4> <ul style="list-style-type: none"> 必要諸室にはOAフロアを設定する。 使用材料には、維持管理のしやすい材料を選択する。 重要度係数 I = 1.25 とし、将来的プラン変更に対応した計画とする。
<h4>Q3 室外環境(敷地内)</h4> <ul style="list-style-type: none"> 屋外駐車場、駐輪場、通路等以外は緑地とする。 東側には既存の高木、西側には新設の高木を配置する。 	<h4>LR1 エネルギー</h4> <ul style="list-style-type: none"> 屋上に太陽光パネルを設置している。
<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <ul style="list-style-type: none"> 衛生器具は節水型の器具を選定している。 	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <ul style="list-style-type: none"> 緑化に努め、温熱環境の維持に努める。 排出する、汚水等については適正に処理を行う。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される